

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0590300018		
法人名	社会福祉法人 相和会		
事業所名	ビハール横手グループホームぬくもり(西ユニット)		
所在地	秋田県横手市上境町字谷地中136番地		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年9月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

常勤の看護師を配置しいつでも医療との連携が取れる体制が整っており安心して過ごすことが出来ております。また、寝たきりの状態になっても変わりなく入浴が出来るよう特浴の機材も設置し最後まで当事業所で過ごせる環境を整えております。また、コロナ禍でなかなかボランティアの受け入れや外出行事が行えておりませんが今後感染防止対策をしながら以前の生活に近づけるよう取り組んでいきたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

訪問時、秋の収穫時期とも重なり、事業所周辺の田園の稲穂が黄金に光り輝き、事業所の窓からも四季折々の季節を感じ取れる生活環境づくりがされている。また、管理者をはじめとする職員のより良いチームワークにより、コロナ禍であっても創意工夫した各種の行事を行っているほか、コロナウイルス感染対策を施した面会室を事業所内に設け、利用者及び家族からも大変喜ばれている。事業所としては利用者の心身状況に変化があったとしても対応出来るように、常勤の看護師を配置するとともに、特殊浴槽等を設置しており、利用者の状況に応じた介護と常に利用者に寄り添った看護ができる体制づくりがされている。事業所のホールや居室等は、職員のきめ細かい清掃が隔々まで行き届いており、清潔で快適な生活空間が利用者の笑顔につながっていることが確認できた。地元の魚屋や八百屋から仕入れた新鮮な食材や地産地消のお米で作る食事は、見た目も豪華で、それでいて上手にやりくりを行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで理念を掲げ、玄関とホールに大きく掲示し毎日言葉にする事で共有を図りながら理念にそった介護の実践に繋がっている。	各ユニットの理念は、ユニットの目的について熟慮し職員の無記名投票を経て、話し合いにより作成した理念であり、その一つ一つが介護の基軸となっている。また、職員個々が理念について常に意識した取組みを実施しており、利用者の安心安全な生活に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ぬくもりで食べているお米は地域の生産業者から購入したり味噌醤油も地域の物を使って食べている。髪染めに地域の美容院に歩いていったりもしている。その他に地域の婦人会による調理のボランティアの受け入れや地域のお祭りへの参加なども行っていたが、現在はコロナウイルス感染予防の為出来ていない。	コロナ禍の状況が長く続き、事業所としても感染対策の為、ボランティア等の受け入れについて制限していた。コロナも5類に移行したことにより、先頃、以前利用されていた利用者の家族(ソプラノ歌手)による歌のボランティア訪問があり、童謡や昔懐かしい歌が披露され楽しいひと時を過ごしている。以前は小学生が芋掘りに来る等、学校の発表会を通じての交流も盛んだったとのこと。	コロナ感染症の状況が落ち着いたら、コロナ禍前と同じような地域交流を図ることができるような検討を進めて下さい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ禍になってから行ってない。運営推進会議で地域の代表の方に伝えたりし、その方が会合などで伝えて下さったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催とし家族代表、婦人会代表、地域代表、市の職員の方々の参加をいただき、様々な意見を頂戴しサービスの向上に繋がっている。また、認知症介護での取り組み内容なども伝え地域へのアピールの場としても活用している。	運営推進会議が定期的開催されており、事業所内で発生したヒヤリハットや事業所の悩みなどを相談し、参加者から様々なアドバイスを受けている。前回の外部評価結果を踏まえ、委員からの質疑、提案の記載について、詳細に記録するよう改善されており、会議の内容についても全職員に確実に伝達されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場にて行政担当の職員の方に事業所の実情やサービス内容や取り組み等を伝え、助言等をお願いし協力関係を築けるよう取り組んでいる。	横手市の介護相談員の訪問が定期的であり、利用者本人と面談を行って来ており、利用者の介護や事業所の職場環境等についてアドバイスを頂いている。また、横手市まるごと福祉課や横手市西部包括支援センターと連携強化し、事業運営に係る助言を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしている入居者はおらず、定期的な研修や勉強会で身体拘束及び虐待について学び、法律や制度を理解した上で今後も虐待ない施設、身体拘束のない介護を目指し努めている。	毎月、法人全体で身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に関わる職員の意識改革研修の実施や不適切な支援の排除について検討を重ねている。また、委員会記録が適正に整備・周知されており、職員個々の意識付け強化が図られている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行っている。また家族からの財産や相続等の相談も市の窓口や社協の窓口等に繋げたりと対応している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いて説明している。また、必要に応じて電話での相談や説明をおこない出来る限りわかりやすく説明するよう心掛けている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	現在苦情等はないが、いつでも苦情や意見を受け付けれる様に玄関に苦情受付箱の設置や苦情受付の窓口の掲示をしている。	電気代や光熱費、食材の高騰を心配してくれる家族から、ホームの負担が増えるのではないかと連絡をいただき、励みになったとのこと。各家族宛での「ぬくもり便り」を毎月発行しており、スタッフからの近況報告や笑顔の写真が好評である。苦情受付に関する体制整備が図られている他、家族等からの意見や要望を聴取するご意見箱については、現在の設置場所以外にも設置場所の検討を重ねており、苦情や要望を大切にしたい取り組みがなされている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	施設長とは最低年に1回は個人面談し管理者とは日々の申し送り時や日常で業務の話や相談をしている。相談内容によっては緊急で主任、副主任等が集まり業務の変更調整を行い出来る限り働きやすい環境作りに努めている。	職員の創意工夫により、コロナ禍においても家族と面会できる面会室の設置、職員の勤務、リネン庫の改修に関する事等、職員の意見を反映した事業が展開されている。職員が、常に管理者や上司とコミュニケーションを図ることのできる職場環境である。「今いるスタッフで、今を作っている。」との管理者の言葉が印象的であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍になってから外部への研修や同業者との交流機会は少ない。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞いて、サービスに反映させて耳を傾けながら安心できる関係作りに努めている。また、自分から意見や意向を伝えることが出来ない方からは日々の生活の中から読み取り本人の為の環境や関係作りに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡やケアプラン、アセスメントなどで家族の要望を確認し、安心して生活をして頂ける様な関係作りに努めている。また、面会に来てくださった時などコミュニケーションを取りながら家族からの要望や相談事などを引き出せるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、時には入居者様が入居者様の手助けや協力しながら一緒にぬくもりで過ごす者同士の関係性作りを目指している。また多くの入居者様と一斉に会えるレクリエーション等の活動の場を通じて信頼関係を築ける様努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会に来ていただけるようなお声掛けと、毎月ご家族様へのお手紙を通じて少しでも入居している方の気持ちをお伝えし、家族との繋がりや絆を大切にしていけるよう支援している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	県外にいるご家族や兄弟との面会を行っている。電話や手紙については行える方がおらず行えていない。電話や手紙のやり取りができるような環境は整えている。	広い空室を面会室として開放し、互いの声が届くよう創意工夫された透明な仕切りを設置することで、違和感無く安心して面会できる。面会室は、利用者や家族からも大変喜ばれており、コロナ禍においても、利用者が家族や馴染みの方々との絆が途切れないよう取り組んでいる。髪を染めに、毎回馴染みの理容店を利用している事例も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は比較的良好であるが、さきまで楽しく話していたのに急に機嫌が悪くなったり、いつも一緒にご飯を食べていた方を急に嫌いになったりと日によって関係性が変わる事も多く、出来る限りトラブルにならないように職員が間に入りバランスをとっている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所との契約終了が入居者が亡くなった場合のみなので、その後の当人との関係の維持が出来ない状態であるが家族との関係は引き続きボランティアや慰問という形で付き合いが繋がっている。また電話での相談にも対応し時々手紙を送ってくださるご家族もいる。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を聞いたり、入所時にご家族さまから確認している。日々の会話の中から把握に努めている。	利用者と日頃から何気ない会話を通して個々の思いや望みを汲み取り、その内容がチームとして共通認識が図られ、まごころが込められた介護が提供されている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴は職員で共有し、好きな事や習慣にしている事等確認して継続出来るよう支援している。本人やご家族との会話から把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	日々の業務の中での気づきの部分を共有し申し送り時や会議などで話し合いをし、様々な意見を取り入れながら介護計画作成に努めている。ご家族とは電話や面会時などに意向の確認や施設側の考えを伝えたりし、本人がより良い環境のもと過ごせるように考え実践している。	利用者個々の思いや望み、そして家族の意向等を取り入れたケースカンファレンスを定期的に関催し、その内容が個別介護計画に反映され、チームとしてその実現に向け取り組んでいる。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の話し合いや個別記録の入力をし情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で受け入れ出来ていないが、婦人会の調理ボランティアや業者からの清掃ボランティア、地域の理髪店による訪問理容や地域のお米業者や味噌醤油の宅配。食材も昔から付き合いのある八百屋を利用したり社会資源と地域資源を活用しぬくもりでの生活を支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHぬくもりでは入居時に当事業所の嘱託医へ主治医の変更をお願いしているが、眼科や形成外科などの専門医の場合は長年付き合いのある病院を継続して使い関係性の維持をしながら適切な医療の継続を図っている。薬局との関係も良好であり服薬変更時や形状の変更など迅速に対応していただいている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への通院については、職員が利用者個々の通院に付き添うとともに、その内容が定期的に家族に情報提供されている。また、かかりつけ薬局では、薬袋の一包化や利用者の服薬状況に応じ、錠剤を散剤にして頂くなど、協力体制が図られている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、体調や状態の変化いつでも対応できる環境が整っている。必要に応じて直ぐに受診したりと医療の部分での連携もとれており安心して過ごして頂ける様に支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急の対応について協力病院を定め迅速に対応できるよう準備している。実際に入院の際は入院時に情報をまとめた物を病棟へ渡したり、退院時には看護サマリーを頂いたり、電話でのやり取りだったり連絡を密にとり情報交換に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重篤化した場合における対応の指針について家族・本人に説明し同意を得ている。実際に重篤化や看取りの段階に入った場合は場をもうけ、主治医の方から説明しその場で今後の方針を決めて対応している。また、その都度方針の確認を行い出来る限り家族の意向に副った対応を心掛けている。	利用者が重度化した場合(看取り)における対応指針を整備し、利用者及び家族の意見や要望を取り入れながら対応するとともに、協力医療機関や常勤の看護師を配置する等、多職種協働によるチームケア体制が図られ、家族の安心感につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍になってから実践での訓練として感染対策について個別に研修を毎年行って来たが応急手当や急変時の初期対応の実践訓練は行っていない。(以前は行っていた)		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い一回は夜間想定での訓練とし行っている。また災害対策として横手市との地域協定も結び要援護者の受け入れ体制を整えている。避難訓練の実施については運営推進会議を通して地域に発信しているが参加までは至っていない。	事業継続計画を法人全体で作成しており、各種災害が発生した場合でも事業が滞ることなく実施できる体制整備が図られている他、災害時に活用する非常食や資機材等についても十分な量が確保されている。法人内の各事業所が隣接していることが、災害時には心強い。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として入居者されている一人一人の個を大切に接するように心掛けている。もちろんの事であるが入浴や排泄などのプライバシーや一人で過ごせる時間の確保なども大切にしている。プライバシー保護について研修も行い、声掛け等の振り返りの機会も作っている。	利用者のプライバシーや個人情報の取扱い等について、全職員が研修を受講し理解を深めている。また、入浴や排泄に係る介護については、できるだけ同性による介護を実施している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通難しかったり話が出来ない方の場合は出来る限り毎日同じ服装にならないように、職員が配慮し対応している。自分で意見が言える方には服を選んでもらったり、自分で着替えてもらったりしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態に合わせた食事形態を提供し食事を楽しんで頂ける様なメニューにするように努めている。また、お手伝い出来る方には、野菜の皮むきやテーブル拭き、お盆拭きをお願いしている。食べたい物を聞いたりし献立に反映させたりしている。	調理場と食堂ホールが隣接しており、調理の音や料理の美味しい香りがホールに漂い、家庭的な雰囲気での食事が提供されている。また、地元の魚屋や八百屋から仕入れた新鮮な食材、地産地消のお米、見た目も豪華で、それでいてやりくり上手な栄養バランスの取れた食事が提供されていた。当日、異なる2ユニットそれぞれの食事を運んできたスタッフが、まるで高級レストランのメインシェフのように、全てのメニューについて、詳しく紹介してくれ、そのもてなしの心に脱帽した。クリスマスには、チキン・ピラフ・ハンバーグ・エビフライ等々、調理するスタッフそれぞれの個性を生かし、ストレスにならない範囲で創意工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況については随時看護師に報告。体調や状態によって経口摂取が出来ない方に関しては主治医の指示のもと看護師が点滴を行い対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを実施する事が出来ている。うがいなどが困難な方に対しては口腔ウエットを使用し対応している。義歯を外す事に対して抵抗がある方に対しては、日中に外して洗浄する様に工夫している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握を行っている。把握する事でトイレ誘導や声掛けを行う事で排泄の失敗やパット使用を減らす事が出来ている。	日頃から排泄チェック表を活用するとともに、利用者個々の表情やサインを見逃さず、さりげない声がけにより排泄支援を行っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を毎日摂取するようように対応している。また、食事の際に食物繊維を多く取り入れている様にしている。(ヨーグルト、フルーチェ、プリンや牛乳寒天など)		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を使用しゆっくり入れる様に配慮しているが、コロナ禍よりユニットごとの入れ替え制の入浴対応にしている為入浴時間が短くなってしまっている。	特殊浴槽室、数人が利用できる一般浴室、個人でゆっくり利用できる個別浴室を整備しており、利用者個々の希望や身体状況等に応じた入浴を実施を実施している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の過ごし方かは基本自由にしており、自分の好きな時に居室で過ごされる方も多。居室の温度や湿度もある程度管理しているが、個人の要望に答え調節を行い気持ちよく過ごして頂けるように配慮している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬内容は各ユニットで確認把握している。急遽服薬変更になったとしても看護師の方から直ぐに新しい情報をまとめたものが配布される為、いつでも最新の情報の共有が出来るようになっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動や軽体操、口腔体操、また行事へ参加いただき、気分転換等を行っている。洗濯物たたみや、お盆拭きは出来る方に役割を持って行って頂いている。テーブル拭きは、自分の席の部分それぞれ全員行って頂く事もある。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になってから外出や外食はできていなかったが今年に入ってからドライブなど外に出る事ができるようになってきた。外食はまだ法人の方から許可が出ない為出来ていない。天気が良い時は外を散歩したり、ご家族様とお墓参りに行ったりと可能な限り配慮して対応している。	コロナ禍において外出ができなかった時期には、事業所内で職員の創意工夫による花見行事を開催し、利用者からも喜ばれている。また、天気の良い日は、交通量の少ない広い敷地を活用し、事業所周辺を散歩し気分転換を図っている。今年、少人数で数回に分け、城山やふるさと村、平和公園へドライブ外出した。帰り道はあえて別ルートを通ることで、桜や草花を眺められるよう配慮している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭管理を行っている為、現在はお金を所持している方は居ない。外出や買い物に行くときに金庫から出して対応。日常は金庫で保管している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や、季節を感じられる壁面飾り等で季節感を感じられる様に工夫している。大きな音や強い光、施設特有の匂いなどない様に配慮している。室内温度管理や湿度管理も行い居心地がよい環境作りを目指している。	利用者が快適な生活を送る事ができるよう、室温や湿度が管理徹底されている他、毎朝の掃除の効果か、事業所内や利用者の居室の隅々まで、快適な生活環境が提供されている。年1回は、業者が外窓の高圧洗浄をしてくれており、洗浄後は清々しいとのこと。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、廊下にベンチを置いたりし一人になれるスペースを設けたり、輪の中から抜け出して気の合う入居者同士が話をして過ごせる場所を作ったりし対応している。真ん中のホールにテレビを見ながら過ごせるスペースを作ったりし工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参してきたテレビや布団、壁掛けや写真など入居の際に使い慣れた物や好みの物を準備してもらっている。タンスや、椅子、テーブル等を居室に配置し落ち着いた環境を作っている入居者もいる。	各居室には、利用者が昔から使用している筆筒や家具が持ち込まれている他、家族等の写真も飾られており、利用者が落ち着いて生活できるような配慮がなされている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自分の部屋など目印があれば迷わず向かう事が出来るように配慮したり、コードレスの掃除機を準備して手軽に掃除機を掛けれる環境を整えたりしている。		